

令和6年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和7年3月5日
函館市立昭和小学校

1 本年度の重点教育目標

気づき、考え、行動する子の育成

2 本年度の取組の重点

- 1 (工夫する子) 主体的に課題を見つけ、意欲的に追究する子
- 2 (進んでする子) 自らの可能性を求め、積極的に取り組む子
- 3 (助け合う子) 自分らしさを生かし、触れ合い、高めあう子
- 4 (たくましい子) 自他の生命を思いやり、心身を磨き鍛える子

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分 野	評価項目	自己評価結果		学校関係者評価		
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善の方策の評価	主な意見 (改善策など)
1 工夫する子 進んでする子	学習スタンダードを身に付けさせているか（学習規律の定着）	a	今後も学校全体で粘り強く指導を続けていく。	A	A	
	授業の中で適用問題を行い、知識・技能を高めさせる授業を行っているか（授業改善）	a	知識・技能の定着を目指して、適用問題を授業の中で取り組む。	A	A	全国学力・学習状況調査の結果につながるよう改善を進めてほしい。
	考えを表現し学び合える学習を工夫しているか（ICTの活用・ユニバーサルデザイン）	a	「共有」機能と「視覚効果」を意識して、改善に取り組む。	A	A	
	児童が、よりよいものを目指して工夫し、自主的な活動ができるように手立てを講じているか（指導技術の向上）	a	授業の初めに見通しをもたせ、個別最適な学びを促していく。	A	A	子供に合わせた指導という視点は良いと思う。
	地域との交流、連携した学びに取り組んでいるか（外部講師の活用・CSとの連携）	a	幼保小連携を継続するとともに、各学年が外部と連携をとりやすくなるように進める。	A	A	地域への挨拶が素晴らしく地域との交流が進んでいることがうかがえる。
	家庭学習の習慣化を図っている（学年×１０分＋１０分・自学の手引き）	b	家庭学習強調週間を設定し、自分の学習を振り返る活動を進める。	A	B	保護者が家庭教育でどう声がけしていくべきなのか、啓発も必要と考える。
	本校の読書活動が、家での読書の習慣化につながっているか	b	学校図書館の利用率を上げ、学級への図書貸し出しの活用を進める。	A	B	本を手に取りやすい取り組みを委員会などで考えてはどうか。
	望ましい学習環境が整えられているか（教室環境・支援体制・適切な予算執行）	a	今後とも机、イス等の整備をしっかり行っていく。	A	A	学習の定着に関わることだと考える。
2 助け合う子	生活スタンダードを身に付けさせているか（校内外のきまり・生活リズム）	b	廊下歩行指導の改善が必要で、すぐに学校全体の方針を決め取り組む。	A	A	
	児童会活動に主体的に取り組ませ、責任をもってやり抜く力をつけさせているか（児童会活動・各行事の充実）	a	今後も充実した児童会活動を進めていく。	A	A	
	早寝、早起き、朝ごはんを心掛けさせるよう働きかけを行っているか	a	保健だよりや職員指導を通して規則正しい生活の大切さを呼びかける。	A	A	
	遊びでメディアに触れる時間を１日２時間以内に心掛けさせているか（メディアリテラシー・クロムブックの約束）	b	生活リズムチェックシートを活用して、メディアリテラシーの啓発を図る。	A	A	
	児童との会話を多くし、褒めて、伸ばすことを大切にしているか	a	児童の良いところを積極的に見付け、自己有用感の向上を図る。	A	A	
	3 たくましい子	児童が、自分の心と身体に関心をもち、体力向上に取り組めるよう働きかけを行っているか	a	学校全体で体育の授業改善を図り、基礎体力を向上する取組を進める。	A	A
道徳教育で自己をみつめ、相手の立場で物事を考えられる気持ちを育てているか（いじめ対応・不登校対応）		a	道徳科の授業で、「自分だったらどうするか」を考える授業改善を進める。	A	A	様々な考えを受け入れられるように、学年に応じた指導が必要だと考える。
児童が、学校内外でも明るいあいさつができるよう働きかけを行っているか		a	先生が率先して挨拶をする姿勢を示し、啓発を図る。	A	A	
児童が相手のことを考え、折り合いを付けられるように働きかけを行っているか（生徒指導対応）		a	児童に寄り添って一人一人の声に耳を傾け、心の成長を促す。	A	A	
EX	コストパフォーマンスやタイムパフォーマンスが向上するよう、業務改善に向けた取組を推し進めることができたか	a	効率よく業務を進められるよう、今後も工夫していく。	A	A	

■ 自己評価達成状況

a	ほぼ達成できた (8割以上)
b	概ね達成できた (6割以上)
c	十分ではない (4割以上)
d	達成できなかった (4割未満)

■ 自己評価の適切さ及び改善の方策の適切さにかかる評価

A	自己評価及び改善策は適切であり、取組を進めるべきである。
B	自己評価及び改善策は適切であるが、若干の修正は必要である。
C	自己評価及び改善策の方向性はよいが、若干の修正が必要である。
D	自己評価及び改善策を再度検討する必要がある。